

質問

検診で膵臓に影があり、画像検査を受けた結果、膵臓がんと診断されました。早く手術を受けたいのですが、主治医から手術前の抗がん剤治療を提案されました。どうすればいいですか。

膵臓がんの手術前治療



荒川 悠佑
県立中央病院
外科副部長

回答

膵臓がんは日本人の部位別死亡の4位です。そして、その数は年々増加しています。早期発見が難しいこともあり、治療が難しいがんとされています。それでも、近年ではさまざまな治療法が導入されるようになりました。画像診断に加えて、超音波内視鏡下で胃内から腫瘍の生検を行う方法があり、組織学的な診断が可能になっています。

膵臓がんが治りにくいのは、血液やリンパの流れによって早い時期から他の臓器(肝臓や肺など)に転移しやすいこと、周囲に重要な血管があるのが血管が巻き込まれるのを防ぐために手術ができなくなる(ことが)あります。手術に加えて、抗がん

早期の全身治療が可能



剤を使用する化学療法でいい成績が得られるようになっていきます。

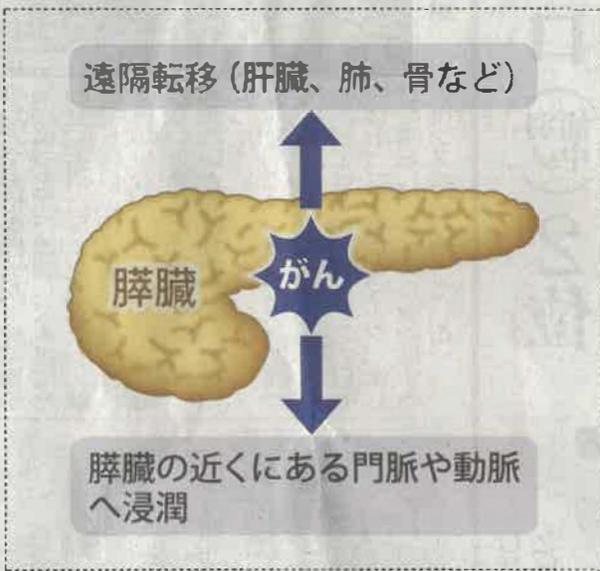
膵臓がんでは、これまで手術の後にテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムやゲムシタビンによる抗がん剤治療を

がん何でもクイズ

ピンクリボン運動は、何がんの啓発運動シンボルでしょう。

- ①乳がん②子宮がん③肺がん

行こうよ！がん検診



行ってきました。これに加えて、最近のガイドラインでは、手術前に抗がん剤を使う治療が提案さ

れています。

膵臓がんを、膵臓だけの病気と考えるのではなく、全身の病気と捉えて、早期に全身の治療を行うことができます。手術前の検査では分からないような小さな転移にも有効とされています。

膵臓がんの手術は膵頭十二指腸切除や膵体尾部切除など(施設によっては腹腔鏡下で実施)比較的大きな手術が多いです。そのため手術後に患者の体力が低下し、積極的な抗がん剤治療が難しいことがあります。手術前の抗がん剤治療は、患者の体力が十分な時期に治療できるのがメリットです。

しかしながら、抗がん剤治療の効果は限定的で、がんが進行してしまうリスクもあります。どの治療がいいか、主治医とじっくりと相談して自分に合った治療計画を選択してください。

(第4土曜掲載)

効果限定的 進行リスクも

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで)

